

既存試料使用に関する配慮に関して

2015年8月3日

名古屋大学大学院医学系研究科

祖父江 元

対象研究名：「剖検病理組織を用いた遺伝子発現解析とゲノム解析による神経変性疾患の病態関連遺伝子の同定と、組織タンパク質の生化学的解析」

本研究の実施にあたり、既存の検体（髄液）を新たな同意取得なしで使用する。その際、以下の様に情報を公開する

①当該研究の意義、目的、方法

筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、アルツハイマー病などの神経変性疾患は、主に中年以降の成人に発症する神経難病といわれる病気です。それぞれの病気で、中枢神経系の特定の神経細胞だけが選択的に障害されますが、これまでのところ一部の遺伝性のものを除けば、原因は全く不明で根治的治療法も存在しません。このため、神経細胞が死んでゆくメカニズムを究明し、治療法を確立する必要があります。そのためには、病気の原因となったり、進行を左右したりしている病態のカギを担う遺伝子や分子を同定していく必要があります。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）をはじめとする神経変性疾患患者の脳、脊髄標本を用いて、組織における遺伝子発現を網羅的に解析し、異常発現している蛋白質の検討をしています。病態に関連する蛋白質の検討、検証をさらに進めるために、検査のときに採取され、余った分が冷凍保存されている患者さん由来の髄液検体を、解析に活用致します。この場合、検体は匿名化され、個人を同定できない形で解析が行われます。

②研究機関名

名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科

共同研究機関

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 神経病理学分野

③保有する個人情報に関して第2の2(12)③、④又は⑥の規定による求めに応じる手続

(第2の4(4)の規定により手数料の額を定めたときは、その手数料の額を含む)

保有する個人情報に関し、問い合わせが可能なように、本研究に関する内容、実施者、問い合わせ方法、問い合わせ先、について名古屋大学医学部ホームページ内に掲載する。問い合わせ先に、個人情報に関する問い合わせや個人情報の訂正、利用停止、第三者への提供の停止を求められた場合には、被験者本人、または代理人であることを確認し、速やかに対応をする。

④保有する個人情報に関して、第2の1(7)⑩の規定による、問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先に関する情報

問い合わせ先：

名古屋大学医学部神経内科 医局 052-744-2391

⑤ 第2の2(12)③二の利用目的の通知、④の規定による開示又は⑦の規定による理由の説明を行うことができない場合は当該事項及びその理由

該当せず

以上